千曲川流域治水 緊急対策プロジェクト

支流への流入抑制盛る

国・県・市町村会議 中間まとめ

台風19号豪雨で被害を受けた千曲川流域の整備を検討している国や県、流域市町村の「信濃川水系緊急治水対策会議」は26日、今後5年間で取り組む対策プロジェクトの「中間まとめ」を発表した。「河川の治水対策」「支流を含めた流域の対策」「まちづくりやソフト施策」の3本柱を組み合わせ、被害軽減を図ることが主眼。水があふれにくい堤防に強化することや、流域のため池、田んぼに雨水を一時的にため、支流への流入を抑えることなどを盛り込んだ。

対策の具体的な実施箇所は盛り込んでおらず、来年1月中にも決める最終まとめに主な箇所を示す見通し。

中間まとめによると、河川の対策では、河道掘削を進め、洪水時に大量の水を流せるようにする。増えた水を一時的にためる遊水地も新たに整備する。堤防は、上部や住宅側ののり面下部を強化する「危機管理型ハード対策」を施し、仮に越水をしても決壊までの時間を延ばす。護岸整備や鋼矢板の打ち込みにより、増水による侵食、浸透がしにくい堤防にもする。

流域の対策では、雨が降る前にため池の水を減らし、貯水できる量を増やすことで支流への流入を抑える。水田のあぜをかさ上げするなどして、雨水をためられるようにする。支流の水をポンプで本流にくみ出す排水機場を増設し、洪水時でも排水機場が浸水しないようコンクリートの防水壁を設置する。

ソフト対策では、水害の危険性が低い地域に居住や都市機能を誘導することや、住宅が浸水しにくい高床式住宅の建築・改築に対する費用助成をする。住民一人一人が災害時にどのように行動するかを時系列で整理する「マイ・タイムライン」作りの推進や、住民への情報伝達手段の強化も盛った。

中間まとめは国交省北陸地方整備局（新潟市）や県の担当職員が流域市町村を回って集めた意見も盛り込んだ。同整備局は「中間まとめを基に流域市町村と協議し、できるだけ早く最終的な対策をまとめたい」としている。

台風19号豪雨 緊急治水対策プロジェクト 中間まとめの主な内容

河川の対策

- 遊水地など洪水調節施設の整備
- 洪水時の水を流すための河道掘削
- 越水しても決壊までの時間を延ばすための「危機管理型ハード対策」
- 堤防の新設
- 護岸の強化による侵食対策
- 鋼矢板など遮水壁による浸透対策

流域の対策

- ため池や水田、学校のグラウンドを雨水貯水に活用
- 排水機場の整備
- 排水機場の耐水化
- 災害時の防災拠点の整備

まちづくり・ソフト対策

- 水害のリスクが低い地域へ居住や都市機能を誘導
- 高床式住宅の建築、改築に対する費用助成
- マイ・タイムラインの作成推進
- 報道機関や公共交通機関との情報共有、連携を強化
- 住民への情報伝達手段の強化

本流の着実な対策求める声も

台風19号災害を受けた信濃川水系緊急治水対策プロジェクトの中間まとめが公表された26日、プロジェクトの検討に加わる県内被災自治体からは、盛り込んだ対策を国や県と連携して「実現させる」と評価する声が上がった。本流や流域での対策が相乗効果を発揮できるよう、本流での対策の着実な推進を国に求める声も出た。

千曲川の堤防が決壊した長野市の鎌田富夫危機管理防災監は、市も要望していた遊水地の整備が河川の水位を下げる対策として盛られたことに「重要な対策だ」と評価。実現には、普段は農地などとして使っている地権者との調整が必要になるが、「用地確保などで国や県と協力していきたい」。既存のため池の活用も「利水関係者と調整や検討を進めていく」とした。

ただ、堤防決壊箇所のある長沼地区など川沿いの地域の住民には「また同じような洪水が起きないか」との不安が根強い―と指摘。堤防強化や河床掘削などの河川のハード対策を「着実に進めるよう要望したい」と話した。

中間まとめでは、ため池の活用に関連し、飯山市のため池約60カ所が地図で示された。市建設水道部は「あくまで一般論としてのアイデア段階」と強調した上で「今後、どのため池を活用するかなど、具体的な検討を進めたい」とした。

電車内に松任谷由実さんらの応援メッセージを載せた広告を掲げる長野大生たち＝26日午後3時1分、上田市の上田電鉄下之郷駅

赤い鉄橋に再び走る姿見たい

長野大生 別所線車内に広告

台風19号で鉄橋が一部崩落した上田市の上田電鉄別所線を応援する長野大（上田市）の鉄道研究同好会N鉄、デザインサークルなどの有志約30人でつくる「別所線かけはしプロジェクト」が26日、別所線への応援メッセージを載せた中づり広告を社員と一緒に車内に掲げた。「あの赤い鉄橋に再び電車の走る姿が見たい」「電車から見える風景は宝物」…。それぞれの思いが、学生があしらったデザインとともにつづられている。

別所温泉を訪れたシンガー・ソングライター松任谷由実さんも「別所線応援してます」とのメッセージとサインを寄せた。ハートが描かれた八木沢駅のベンチを背景に、松任谷さんの曲「ルージュの伝言」を想起させる口紅や空を入れ、広告にした。

掲載料を払ってメッセージを寄せる賛同者を募り、78人が応募。この日までに32人分を載せた広告を作った。掲げた車両は26日から運行した。

プロジェクトは広告掲載料と集めた募金の計24万3900円を同社に贈った。代表で環境ツーリズム学部1年の植田晃弘さん(20)は「多くの人に支えられていると実感した。復旧するまで継続して支援していきたい」と話した。